

第8回 食育活動表彰

事例集



● 事例集の発行にあたって

2016年度から、農林水産省は「食育活動表彰」を立ち上げ、ボランティア活動、教育活動又は農林漁業、食品製造・販売等その他の事業活動を通じて食育を推進する優れた取組を表彰しています。

今回の表彰対象の活動は、第4次食育推進基本計画の重点事項を中心に

- (1) 生涯を通じた心身の健康を支える食育を推進する活動
- (2) 持続可能な食を支える食育を推進する活動
- (3) 「新たな日常」やデジタル化に対応した食育を推進する活動
- (4) その他の食育を推進する活動

としています。

表彰部門には、都道府県、政令指定都市、大学等からの推薦によるボランティア部門と、自薦応募も可能な教育関係者・事業者部門の2部門を設定しています。

今回は154件の事例の中から、特に優れた取組を行っている5件の団体に対して農林水産大臣賞、優れた取組を行っている14件に対して消費・安全局長賞及び特色ある取組を行っている5件に対して審査委員特別賞が授与されました。

受賞者の取組をまとめた本事例集は、地域で様々な食育活動を行っている方々の参考としていただけるよう作成いたしました。皆さまの今後の食育活動をより一層充実したものにしていただくために、御活用いただければ幸いです。

2024年4月

農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課

● もくじ

■ 第8回食育活動表彰審査委員会 委員	03
■ 第8回食育活動表彰 講評	04

ボランティア部門 — 受賞団体の取組紹介 —

[食生活改善推進員の部]

 兵庫県いずみ会 [兵庫県]	06
 山梨県食生活改善推進員連絡協議会 [山梨県]	07
 九戸村食生活改善推進員協議会 [岩手県]	08
 大阪市食生活改善推進員協議会 [大阪府]	09
 網走市食生活改善協議会 [北海道]	10

[食育推進ボランティアの部]

 キッズ☆サポーター [福井県]	11
 萩市の食育を支える会 [山口県]	12
 宇治市健康づくり・食育アライアンスU-CHA [京都府]	13
 なめりかわ食育サポーターの会 [富山県]	14
 相愛大学発達栄養学科 チーム「ロスノン」 [大阪府]	15
 高松市生活研究グループ連絡協議会 [香川県]	16

教育関係者・事業者部門 — 受賞団体の取組紹介 —

[教育等関係者の部]

 佐賀県立伊万里実業高等学校 フードプロジェクト部 [佐賀県]	18
 埼玉県春日部市立牛島小学校 [埼玉県]	19
 一般社団法人日本食育HEDカレッジ [東京都]	20
 福岡県立 戸畑高等学校 家庭クラブ [福岡県]	21
 岡山県立大学保健福祉学部子ども学科 [岡山県]	22

[農林漁業者等の部]

 サスティナ鶴岡 [山形県]	23
 西美濃農業協同組合 ふるさと隊 [岐阜県]	24
 鈴木 芳昭 [千葉県]	25
 JA糸島青年部 [福岡県]	26

[企業の部]

 株式会社千葉ジェッツふなばし [千葉県]	27
 株式会社松本山雅 [長野県]	28
 株式会社伊藤園 [東京都]	29
 株式会社ライフコーポレーション [東京都]	30



農林水産大臣賞



消費・安全局長賞



審査委員特別賞

●第8回食育活動表彰審査委員会 委員

赤松 利恵 お茶の水女子大学 基幹研究院 自然科学系 教授

秋田 昌子 すみだ食育goodネット 顧問

臼倉 正浩 公益社団法人 日本農業法人協会 理事

倉本 善子 株式会社共同通信社 大阪企画事業部 次長

坂本 佳奈 サカモトキッチンスタジオ 主宰

中嶋 康博 東京大学大学院農学生命科学研究科長 農学部長

敬称略：50音順

●第8回食育活動表彰 講評

審査委員長
中 嶋 康 博

＜ 東京大学大学院 農学生命科学研究科長 農学部長 ＞



第8回「食育活動表彰」では、全国都道府県等から推薦された154件を対象に審査を行い、その中から優れた24の食育活動を表彰することとなりました。受賞された団体・個人の皆さまに心からお慶びを申し上げます。

審査委員会では審査基準に基づき、先進性、継続性、有効性、波及性、実践性の5つの観点から評価をし、さらに、以下についても審査委員で熟慮を重ねて検討を行いました。

- ① 対象活動が第4次食育推進基本計画の3つの重点事項の効果的な解決に資するものであるか。
- ② “地域における食の循環”全体の中における自らの活動の目的や目標を明確にし、企画、実施、評価までに関して地域との連携を踏まえて活動を進めているか。

「ボランティア部門」（食生活改善推進員の部）では、兵庫県いずみ会が幼児、学童とその保護者をはじめ、食生活が乱れやすい中高大学生を対象とした講習会及び訪問活動による普及啓発を実施して、バランスの良い食生活が習慣化するように支援してきました。「同部門」（食育推進ボランティアの部）では、福井県のキッズ☆サポーターが「料理で学ぶ」をコンセプトに市内全園の年長児が参加する「キッズ・キッチン」基礎編、地域内外からも参加できる「キッズ・キッチン」拡大編、市内全校の6年生が参加する「ジュニア・キッチン」を、市民グループの主体的な取組によって展開しています。

「教育関係者・事業者部門」（教育等関係者の部）では、佐賀県立伊万里実業高等学校フードプロジェクト部が「食で伊万里を元気に」をキーワードに地元食材を活用した商品開発を続けていて、正しい食の循環システムを構築すること、地域の一人ひとりが参加できる持続可能なまちづくりを行うことを目指しています。

「同部門」（農林漁業者等の部）では、山形県のサステナ鶴岡が郷土食文化の継承に危機感を覚えた食材生産者および地域の料理人らを中心に、子どもたちの自活力を育む、体験の貧困を減らす、郷土の食文化と食材の豊かさを伝承する、将来農業や漁業に携わる人材を育成するための活動を行っています。「同部門」（企業の部）では、千葉ジェッツふなばしが、「“ささえる”からはじまる社会貢献」を展開する中で、子ども食堂、フードドライブ、子ども未来会議室、選手発案農業体験、選手と料理体験といった活動を地域の行政、企業、NPO、JAなど様々な団体と連携して行ってきました。

以上、5つの部の大臣賞をご紹介しましたが、それ以外の14の局長賞においても第4次食育推進基本計画の重点テーマを中心に包括的に食育に取り組んだ事例を表彰しました。また、5つの審査委員特別賞では、地域の特定の課題に取り組んだり、食育の領域を広げて未来の姿を示したりした挑戦的でユニークな取組を受賞対象とさせていただきます。

表彰された様々な食育活動をご覧いただき、国民の間に食育の意義と奥深さが理解されることを期待するとともに、家庭、学校や保育所等の教育現場、そして地域において食育のさらなる推進と新たな食育への挑戦が起ることを祈念しております。